

下鴨神社

みたらし祭

京都にはたくさんの祭りがありますが、その中に肌で体感して楽しむ祭りもあることを皆さんはご存じでしょうか。今回は、誰もが気軽に参加でき、暑いこの季節にふさわしい祭りを紹介します。(金魚)

みたらし祭のあらまし

下鴨神社本殿のすぐ近くに、御手洗池と呼ばれる池があります。ここは葵祭の際に齋王代が祭りに先立って禊の儀式を行うことでも知られている、神聖な池です。今回紹介するみたらし祭は、そんな靈験あらたかな池に一年に一度だけ入ることを許される祭りです。

みたらし祭は下鴨神社で行われる神事のひとつで、土用の丑の日とその前後(今年は7/19(日)～7/26(日))に行われます。灯明料(300円)を納めれば誰でも自由に参加することのできるこの祭りは、池に入り足を膝まで浸す神事であることから「足つけ神事」とも呼ばれています。御手洗池の上に建てられている下鴨神社の境内末社のひとつ、井上社には、災難厄除けの神様である瀬織津姫命が祀られています。そのため池に足をつけ社に灯明をお供えすることによって罪やけがれを祓い、無病息災を祈ることができると言い伝えられています。

みたらし祭は朝早くから夜まで行われています。終日行われるこの祭りは、昼間に行けば暑い日差しの中で冷たい水に身も心も清められ、夜に行けばろうそくの灯りが織りなす幻想的な雰囲気を楽しむことができます。



▲御手洗池に入る参加者たち



▲井上社

みたらし祭の流れ

壹



灯明料を納めろうそくを受け取ったあと、御手洗池から流れ出る小川、御手洗川へ下りていきます。川に架かる輪橋をくぐって川に足を踏み入れると、靈的な空間へ入り込んだという感覚が湧き上がってきます。

貳



川から池に差し掛かる途中にある火種のろうそくから火をいただき、そこから井上社の方に向かって歩きます。火が消えないようゆっくり歩くことで、心のけがれが祓われているのを感じられます。

参



井上社前に用意された祭壇にろうそくを供えたあと池から出ると、ご神水をいただくことができます。これを飲むことにより身が内側からも清められ、1年間無病息災のご利益にあずかることができます。

はみだし
すてーじ

京都の夏の暑さとはどんなものなのか、知りたい気もするがやっぱ冷夏がいい。
⇒ビジュアルな1回生らしい投稿ですなあ。

(工・1 airod)
(素直な感想を述べてしまうこの3回生；編)